

▼○中島謙二議員▽ 自民党議員連盟の中島謙二でございます。質問を始める前に、先般、17日に衆議院議員島根2区選出の竹下亘先生が御逝去されました。本当に残念でありませんが、改めて謹んでここに哀悼の意を表し、心より御冥福をお祈りをいたします。

さて、本日から始まった一問一答質問、初日の最後となりましたが、6月議会に引き続き、多少緊張しつつも、私自身がもっとあったらと思うのであります以前の切れを取り戻すべく、●レンタルシリーズ●第2弾を含め、大きく2項目について一問一答質問を行いますので、よろしく願いをいたします。

まず初めに、石見の観光資源について伺います。

令和の時代がスタートし、早くも3年が経過しておりますが、この令和の元号の出典は、御承知のとおり現存する最古の歌集である万葉集であります。福岡県筑紫大宰府の大伴旅人の屋敷で行われた梅見の宴会で詠まれた、和歌32首の前に記された序文(巻五)の「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭を珮後の香を薫らす」、折しも初春のよき月で、辺りの気配は心地よく、風は穏やかである。梅の花は鏡の前のおしろいのように白く咲き、ランは帯の匂い●の●袋のように香っているという一節の令月、風和の言葉の2文字を取って名づけられた元号令和には、人々が互いにつながり合う美しい調和への願いが託されております。

この万葉集には、石見地方に関する歌が多く詠まれており、その大半は、8世紀初めの万葉時代に石見に住んだ万葉集の代表的な歌人であり、今も歌聖としてあがめられる柿本人麻呂の作品であります。その柿本人麻呂は石見地方で没したと言われ、その死に臨み「鴨山の 岩根しまける 我をかも知らにと妹が 待ちつつあらむ」と詠んでおりますが、その終えんの地、鴨山に関しては諸説あり、石見各●地域●に多くの伝承が残されておりますが、まず終えん地、鴨山について石見各地域にどのような説が●伝えてある●のか伺います。

▼○副議長(池田一)▽ 田中商工労働部長。

▼○商工労働部長(田中麻里)▽ 柿本人麻呂につきましては、実像が明らかではないため、その生涯は謎に包まれておりますが、議員から御紹介がありましたとおり、石見地方で没したと言われております。人麻呂終えんの地、鴨山の所在については、諸

説ありますが、昭和50年刊行の益田市史によりますと、益田市沖に水没した鴨山であるとする益田市高津説、浜田市の城山、亀山であるとする浜田市亀山説、同じく浜田市の国府周辺にあったとする那賀郡国府説、江津市二宮町の神村付近とする江津市神村説、同じく江津市二宮町の恵良の里にあったとする江津市二宮恵良説、邑智郡美郷町湯抱にある鴨山であるとする邑智郡湯抱説の6つの説が記載されております。

▼○副議長(池田一)▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ この鴨山については、先ほどちょっと説明ございましたけども、1026年、万寿3年の万寿地震により、高津川と益田川の沖合にある益田市沖で水没した鴨山とする説が有力な説とされております。このことを証明するために、昭和52年、1977年に梅原猛により学術調査が行われ、確かに大地震と津波が起きていたことが確認をされましたが、残念ながら鴨山についてははっきりとした証明をすることができませんでした。

しかし、地元の益田市では、724年に鴨山に柿本人麻呂を祭る社殿が建立されたとの記録があり、その神社は1026年、万寿3年の大地震と津波により海底に没してしまいましたけれども、対岸の松崎の地に人麻呂の御神体が流れ着き、その地に神社が創建された記録があるとされております。

また、柿本人麻呂が依羅娘と別れ上京するとき「石見のや 高角山の 木の際より我が振る袖を 妹見つらむか」と詠んでおりますが、この歌の中にある高角山には、江津市高角山、益田市の高角山や大道山などの解釈がなされているなど、石見地域には柿本人麻呂に関し万葉ロマンが感じられる多くの伝承が残されているため、石見各地区に多く存在する柿本人麻呂ゆかりの地が連携して、今後は柿本人麻呂をPRしていくことが重要であるとともに、柿本人麻呂の伝承は石見地区の大きな観光資源となり得ると考えておりますが、県としてはどのように考えられるのか伺います。

▼○副議長(池田一)▽ 田中商工労働部長。

▼○商工労働部長(田中麻里)▽ 議員御指摘のとおり、石見地区には柿本人麻呂ゆかりの地が多く存在し、石見ならではの観光資源になり得ると考えております。また、それらを観光資源として生かしていくためには、しっかりとPRしていくことが重要であると考えます。

県といたしましても、専門講師を招いた講演会や観光ポータルサイトでゆかりの地を動画で紹介したり、周辺の観光スポットと一緒にモデルコースとして提案するなど、工夫しながら情報発信をしております。

また、県や市町、関係団体で構成する石見観光振興協議会と連携して、ゆかりの地を周遊する仕組みづくりやホームページに特集ページを設けるなど、誘客の取組を強化してまいります。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 平成24年に古事記編さん1,300年を契機に、大型観光キャンペーン、神々の国しまねプロジェクトが進められ、そのプロジェクトの一環として、江津市において全国万葉フェスティバル in しまねが開催されましたが、その後は、●山陰●万葉を歩く会の川島美美子先生を中心に柿本人麻呂に関する活動が継続されております。しかし、その後、神々の国しまねプロジェクトのような大きなPR活動やイベント等は行われておらず、せっかくの重要な観光資源が十分に活用されていない状況ではないかと思っております。

そのような状況の中、再来年の2023年、令和5年には、柿本人麻呂没後1,300年となる節目の年を迎えることとなります。2023年の1,300年祭を契機に、益田市柿本人麻呂公顕彰会では、石見各地の柿本人麻呂ゆかりの地域の結集と石見地域の市町村と連携し、ふるさとに対する自信と誇りの醸成や、歴史と文化を次世代につないでいくことなどを目標に、来年2022年には本格実施を盛り上げるためのイベント、そして本番の再来年の2023年にはイベントを受けての記念講演や様々なイベントを企画し、全国にPRしていくことを計画しておりますけれども、今後、県として、この取組への御理解、御協力をいただきたいと思っておりますが、県としての考えを伺いたいと思っております。

▼○副議長（池田一）▽ 丸山知事。

▼○知事（丸山達也）▽ 柿本人麻呂を石見地域の観光資源として生かしていくためには、地元の皆様方が人麻呂の歴史や文化をよく理解され、愛着と誇りを持って次世代につなげていただく中で、この石見を訪れる方々にその魅力を伝えていくことが大切であるというふうに考えております。

今後、益田市におきまして、人麻呂没後1,300年の記念行事を行うための実行委員会が設立され、具

体的な事業について検討をされる予定というふうに伺っております。

県といたしましても、こうした取組への支援について検討してまいりたいと考えております。記念イベントの実施●自治体●によるPRに加えて、地元の関係市町が連携して取組を継続していかれることを期待しているところでございます。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ ありがとうございます。これから、しっかりと地元を盛り上げていきたいと●いうふうに●思っておりますので、ぜひお力添えいただけますよう重ねてお願いしますとともに、田中部長は益田市の出身ですから、きっとお力添えいただける●という具合●に思っておりますので、よろしく願いをいたします。

次に、オーラルフレイルについて伺いたいと思っております。

本県においては、3人に1人が65歳以上となっており、その中でも75歳以上の後期高齢者の増加がさらに進み、介護を必要とする方の増加も見込まれますが、住み慣れた地域で元気で住み続けられることが望まれるところであります。

そこで、まず介護が必要となる原因には、どのようなものが考えられるのか伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ 厚生労働省が行います国民生活基礎調査では、3年ごとに介護に関する抽出調査を行っております。この調査結果によると、介護が必要となった原因となる疾患や症状は、割合が高い順に認知症、脳血管疾患、骨折や転倒、高齢による衰弱、関節疾患となっております。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 今、要介護状態の原因の説明がございましたけれども、その中で転倒や骨折、高齢による衰弱などはフレイルとも関連が深いと考えられています。このフレイルとは、簡単に言えば、加齢により心身が老い衰えた状態のことです。このフレイルは、早く介入して対策を行えば、元の健全な状態に戻る可能性があります。このフレイルは、英語のFrailtyが語源で、Frailtyを日本語に訳しますと、虚弱や老衰、脆弱などを意味いたしますけれども、日本老年医学会は、高齢者に起こりやすいFrailtyに対し、正しく介入すれば戻るといった意味があることを強調するため、

フレイルと共通した日本語訳とすることを●2014●年に提唱しております。

また、フレイルの基準には様々なものがありますが、フリードが提唱した基準には、1、体重減少、意図しない年間4.5キログラムまたは5%以上の体重減少、2、疲れやすい、何をするのも面倒だと週に三、四回感じる、3、歩行速度の低下、4、握力の低下、5、身体活動量の低下の5項目あり、3項目以上該当しますとフレイル、1つまたは2項目だけの場合にはフレイルの前段階であるプレフレイルと判断をいたしますけれども、フレイルには、体重減少や筋力低下の変化だけではなく、気力の低下などの精神的な変化や社会的なものも含まれますが、このフレイルの状態に至ると、身体等にどのような変化が起こる可能性があるのか伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ フレイルの状態になりますと、歩く速度が遅くなったり、疲れやすく、何をするのも面倒、体重が以前より減ってきたなどの傾向が見られます。これらのように、社会的な交流が減少したり、筋力の低下から転倒しやすくなるなど、要介護状態につながる可能性があると考えております。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 次に、フレイルの予防についてであります。高齢者に発症しやすいフレイルは、適切に予防すれば日頃の生活にサポートが必要な要介護状態に進まずに済む可能性があります。そのため、フレイルの予防には、フレイルのメカニズム（フレイルサイクル）をよく理解し、正しい●介入方法●を行う必要があります。フレイルサイクルとはどのようなメカニズムなのか伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ 加齢や病気で筋肉の量が減り、筋力の低下が起こると、活動量が少なくなり、身体機能の低下を招きます。活動量が減ると、エネルギー消費量も減少し、エネルギーが消費されなければ食欲も低下します。あわせて、加齢により口腔機能の低下が起こり、かむ力や飲み込む力が弱くなります。そうすると、適切な食事の量や質が確保できず、低栄養の状態が続き、さらに筋力低下が進みます。フレイルサイクルとは、この悪循環によりフレイルが進行していくことであります。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 今、説明いただいたフレイルサイクルを断ち切る、またはフレイルのスピードを遅くするための介入方法には、持病のコントロール、運動療法、栄養療法、感染症の予防などが上げられ、フレイルの予防にはバランスのよい食事と適度な運動が基本となり、食事の取り方、運動の行い方を工夫することでフレイルが重症化することを防ぐことができます。そのため、特に高齢者の食生活の特徴と低栄養対策に関し、口腔機能のケアが非常に重要と考えられますが、フレイルのきっかけとなるささいな口腔機能の衰えをオーラルフレイルといいます。

ある調査によりますと、オーラルフレイルの人は、そうでない人に比べ、2年以内に身体的フレイルを発症する確率が2.4倍、4年以内の死亡リスクは約2倍ということが分かってきております。したがって、このオーラルフレイルの発症予防と適切な改善対策を取ることはフレイル予防にとって非常に重要となってきますが、このオーラルフレイルの症状はどのようなものが考えられるのか伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ オーラルフレイルの主な症状としては、以前に比べて硬い物が食べにくくなったり、お茶や汁物などでむせることがあったり、口の渇きが気になったりすることなどがあります。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ まあオーラルフレイルに対しては、さらなる口腔機能低下を予防するために、当然ですけども、歯周病や虫歯の治療を行い、残存歯を維持することが大切であるため、厚生労働省と日本歯科医師会は、80歳になっても自分の歯を20本残すことを目標とした、8020運動を展開しております。また、島根県においては、平成22年に島根県歯と口腔の健康を守る8020推進条例を制定し、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりを推進しておりますが、このオーラルフレイルという概念に基づいた対策である口腔機能の維持、改善といった対策については、まだまだ進んでいないのが実態のように感じているところであります。

そこで、県内の高齢者の口腔機能の状況について伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ 島根県後期高齢

者医療広域連合が歯科医療機関の協力を得て実施しております。後期高齢者歯科口腔健診では、口腔の状況及び食べ物をかむ力や飲み込む能力について調べております。令和元年度にこの健診を受けた方のうち、かむ能力が低下するおそれのある人は、70代で14%、80代で24%、飲み込む能力が低下するおそれのある人は、70代で8%、80代で9.7%と、高齢になるにつれて口腔機能が低下するおそれのある人の割合が高くなっております。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ このオーラルフレイルは、加齢による歯の機能や口腔の状態が原因の一つであり、硬い物が食べにくい、むせ込みが増えたなどの日常のちょっとした変化を放置しておきますと、オーラルフレイルの進行を早めることにつながります。また、硬い物が食べにくくなりますと、柔らかい物ばかりを好んで食べるようになります。そうになると、かむために必要な筋力がさらに低下し、より一層かむ力が衰えるといった悪循環に陥りやすくなることにより、口腔機能の低下、ひいては心身機能の低下への第一歩となる可能性があります。

そのため、県として、今後早急にさらなるオーラルフレイル対策、そして予防トレーニングに取り組んでいただきたいと思います。県の取組について伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ オーラルフレイル対策、予防トレーニングに対しては、市町村が主体となり、口腔機能を維持するための口の体操やリーフレットを活用したセルフチェックの取組が行われており、それらを進めるに当たり、県では島根県歯科医師会等の関係機関と連携して、資料の作成や啓発など市町村の取組を支援しております。また、市町村は、後期高齢者に対する歯科口腔健診を通じ口腔機能の低下や低栄養などが見られる方に対し、保健や歯科の専門職と連携して、健康づくりや介護予防の取組を進めています。県では、この取組を通じて得られたデータを収集、分析し、市町村と共有することで新たな課題に対応してまいります。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 先ほど述べました、80歳になっても自分の歯を20本以上残して、何でもおいしく食べられることを目指す8020運動は、スタートした平成元年には、80歳で20本の歯がある人は1割に

も満たなかった状況でございましたけども、今は5割を超えております。このように歯を維持することができるようになってきた今、かんだり、飲み込んだりといった口の様々な機能も併せて維持することで人生100年時代をより健康に生きようという考え方が、オーラルフレイルなのでありますが、高齢者が住み慣れた地域で健康で生き生き暮らせるために、健康長寿は誰もが目標とする老後であります。この健康長寿しまねを目指すために、オーラルフレイルを含むフレイルの予防、改善につなげていくことが非常に重要と考えられますが、県はどのように考えているのか伺います。

▼○副議長（池田一）▽ 小村健康福祉部長。

▼○健康福祉部長（小村浩二）▽ 県では、島根県歯と口腔の健康づくり計画を策定し、健康寿命の延伸、健康格差の縮小、8020の達成を目標として掲げ、島根県歯科医師会をはじめ関係機関と共に取組を進めております。

健康寿命延伸の取組の中でも、食生活、歯と口腔の健康づくりを県民運動の柱として位置づけ、健康長寿しまね推進会議に参画する構成団体と共に取組を進めております。

歯と口腔の健康は健康寿命の延伸につながる大きな要素であると考えております。今後とも、県民の皆様一人一人が子どもの頃から生涯を通じて、歯と口腔の健康を意識し過ごしていただけるよう、関係機関とともに取組を進めてまいります。

▼○副議長（池田一）▽ 中島議員。

▼○中島謙二議員▽ 中年では、●加齢の●肥満から●なる●メタボリックシンドロームが糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病を引き起こし、死亡リスクを高くするため、生活習慣病の予防が大切ではあるわけですが、今、取り上げてきました後期高齢者では、今まで述べてきましたようにオーラルフレイルを含むフレイルの原因となる身体機能や認知機能の低下に関係する低栄養の対策が重要となってきます。そのため、厚生労働省は、メタボ対策からフレイル対策への円滑な移行が必要としており、生活習慣病の予防よりも生活習慣病の重症化の予防とフレイルの進行の予防が重要視されてきておりますので、県におかれては、健康長寿しまねを目指し、今後さらに一層オーラルフレイルを含むフレイルの予防対策に取り組んでいただくことをお願いしたいと思います。

以上で、ちょっと早くなりましたけど、一問一答
質問を終わりたいと思います。次回はもう少し滑ら
かに、かつ時間はしっかり使って頑張りたいと思
いますので、どうぞよろしくをお願いします。

以上で終わります。（拍手）